

視察報告書 2-1 町田市議会 無所属会派 吉田つとむ記 2023.07.18  
三井屋工業株式会社 東北事業部 新鋭工場の見学



東北事業部の玄関



三井屋工業東北事業部の工場内

### <概要>

三井屋工業株式会社は、愛知県豊田市に本社を置き、事業内容は、自動車内外装品製造の分野で躍進する中小企業（従業員数が 206 名（2023 年 3 月末時点）の会社です。

主な取引先はトヨタ自動車をはじめ、トヨタ紡織株式会社、トヨタ自動車東日本株式会社、トヨタ車体株式会社、林テレンプ株式会社などとされており、いわゆるトヨタグループの系列企業と称される企業に相当しています。その売上高は、73 億円（2022 年度）に上っています。

工場は、本社工場、第二工場、篠原工場（豊田市篠原町）、九州工場（福岡県宮若市）、及び、東北工場（山形県米沢市八幡原）の 5 カ所に展開され、視察した東北工場は、2021 年に竣工したばかりとなっています。

今回は、三井屋工業株式会社 東北事業部（東北工場）を訪ねました。



同社 HP 写真を添付



三井屋工業の HP トップページ

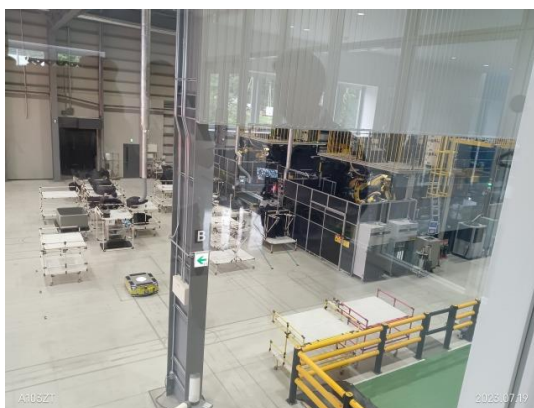
三井屋工業株式会社 東北事業部は、山形県米沢市が開発した「米沢八幡原中核工場団地」に、2021年竣工でできたばかりです。三井屋工業が最適の場として、設定した最新工場でした。

以下の製品を作っていました。

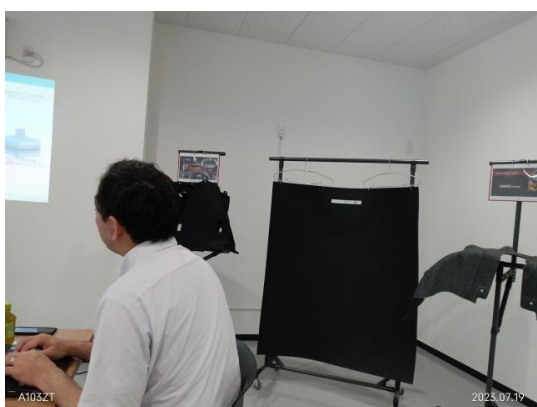
- ①自動車用トランク内装の製造・加工
- ②自動車用ホイールハウ斯拉イナーの製造・加工



製造する部材の説明を聞く



製造ラインの最終工程



後方は素材と工場で作った加工品の見本 高橋社長による企業説明

特徴として、三井屋工業株式会社は、多くの工場が抱える課題として不良品の発生をどのように減少させるかという問題があり、それを現場日報の電子化、ネットワーク化してリアルタイムで問題解決するDX化に取り組んでいました。

ハイコネックス (HiConnex) というデータとデジタル技術を取り入れた生産管理システムを独自に開発し、この東北事業部では全面的に導入されていました。工場内の作業者が各自にタブレットを使用し、東北工場、そして本社とも集約された情報が大型のモニター画面に一覧で閲覧できていました。

このハイコネックス（HiConnex）では、現場カメラが個々に配置され、製品の検査機能が人の眼を通じるのではなく、不良品の発生を防止する工程が機械化されていることも特徴でした。



ハイコネックスで一元管理



新工場に導入された自動化した製造装置

## <所感>

### （事業所のあり様）

これまで、希望して最新鋭工場を見学することが何度かありました。そうした際に、内部を撮影させて頂くことはほとんど難しいというのが、実感でした。

今回も同様だろうと思っていましたが、工場見学の際、特段の制限を受けずに製造装置の傍まで案内されました。そのため、注意した点は、働いている人にカメラが向かないように気を配った点だけでした。



不良品はペレット化され、再資源化



製造装置は数人の人が動かす

不良品の発生を減少させるのがハイコネックス導入の理由ですが、その目的を達成した上で、不良品が発生した場合を想定し、それを再資源化するのが今日

的な事業の在り方なのでしょう。

一方で、一般の工場においては、従業員の定着率が重視されており、新設の東北事業部では工場のスマート化を図ることでその向上が図られているというものでしたが、一般中小企業で働いてきた経験があるものには、雇用の安定が必要であり、社会保険を含む待遇の維持と発展が欠かせない条件であるのでしょうか。

直接一般の従業員の方と話す機会はありませんでしたが、皆さんが元気に働いておられる様子の一端を拝察できました。



製品の置き場と製品（大半はオープン型のコンテナに収納する）

フォークリフトで完成品を搬送。期日、時間に合わせた予定のトラックに積み込む。

こうした事業内容から、三井屋工業株式会社、特に、東北事業部は、各界から注目され、トヨタ自動車から様々の分野で表彰、評価を受けているだけでなく、米沢市のブランド戦略展開においても評価を受け、「米沢発！中小企業のスマートファクトリー」として表彰をされています。

さらには、経済産業省東北経済産業局主催の【東北DX大賞2022（業務プロセス部門）】にて優秀賞を受ける評価も得ています。



各種の表彰状やメダル類



この技術が評価されている

### (社長の人柄と視察の対応)

愛知県豊田市より来られた高橋直輝社長、及び、執行役員の奥田照彦東北事業部部長、山田勝則主査の3氏より、受け入れと説明をいただきました。

通常、わざわざ、本社（愛知県豊田市）から社長が山形県米沢市の新鋭工場から出迎えて、挨拶・説明をしていただくような例があるでしょうか。



工場玄関で見送り頂きました



社長から企業理念や目標を聞く

我々、議員が視察して、それが商売につながるわけではなく、特別の縁故があって、この三井屋工業株式会社 東北事業部を訪れたわけではなく、自治体が造った工場団地に入居する企業と言うのは、どう言う体質を持った企業なのか、どのような人が働いているのだろうかと考えた経過がありました。

また、こうした工場の見学では、社長は挨拶、一般には、課長や主任が説明されるというのが通底で、社長や幹部は挨拶のみと例に無数に遭遇してきました。それが、1時間半（正味）の全部に高橋社長と奥田事業部長にも同席していただいたの視察見学でした。

参考で、動画の吉田つとむ発見動画チャンネル:「三井屋工業株式会社訪問1：高橋社長にインタビュー。ペーパー日報から電子日報へ、集積が続き、【ハイコネックス】としてまとめ、現在では外販化をしている 2023.07.19」のリンク先を掲載します。

<https://youtu.be/EfOJQE1cHIQ>

これは、同社が最も力を入れてきた分野です。

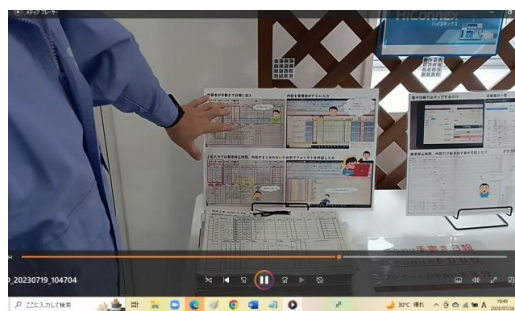
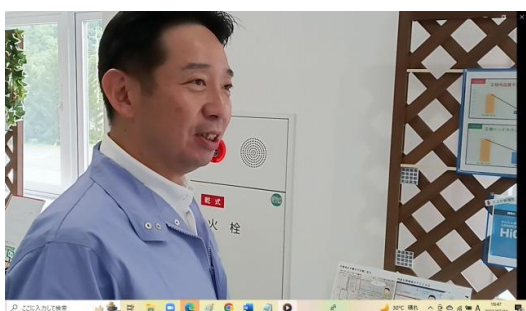
### (外販する【ハイコネックス】について)

上記のハイコネックス (HiConnex) については、最新のハイテク化が瞬時に理解できるものではありませんが、東北事業部の訪問に際して、とても丁寧に説明いただきました。

旧来の手書き日報では、製造ライン、個々の作業に問題が生じて、工場全体、

あるいは本社の把握には、時間がかかったこと、あるいは日報の書き写し過程で誤りが生じる可能性を排除できないものでしたが、現場従業員がタブレットのフォーマット内に必要事項を確認タッチ入力することで、工場管理部門や本社においてもリアルタイムの生産工程把握が可能になっていました。

また、生産ラインの中に組み込まれたカメラによる製品検査機能が、仕上がり品の不良品を無くす（減少させる）ことに重要な役割を果たしている様子が理解できました。従来のカンに頼る製造から、数値化、見える化した製造に変化する変換を図っていました。



ハイコネックスを説明中の高橋社長

### （三井屋工業の今後の展望）

今回の東北工場の新設稼働、安定化が図られると、次には、既存工場のラインの全面的な切り替え、あるいは工場設備の一新が行われると、ラインの生産性が上がり、製品の歩留まり率が向上し、全体として、企業としてさらに前進するものと思っています。

質問の中で、社長の出身を問いました。具体的には、2世か、天下りかを尋ねたものでした。生え抜きという返事を聞き、さらに、三井屋工業株式会社が成長していくものだと想像した次第です。

質問をしなかったことに以下のことがありました。

三井屋工業株式会社の社業の中で、「①自動車用トランク内装の製造・加工の分野」がありますが、これから先、電気自動車が拡大し、エンジン車が減少する見込みです。しかし、「②自動車用ホイールハウスライナーの製造・加工」の分野は減少することなく、むしろ、ホイール回りの防音性の向上は三井屋工業株式会社の得意とするところではないでしょうか。

もちろん、自動車の電動自動車への転換は、予想以上のスピードでやってくるかも知れませんが、その時、三井屋工業株式会社にとって、①の製品需要の減少が生じるでしょうが、三井屋工業株式会社はこれからも企業の進取性を持って、新たな成長商品を開発できるのではないのでしょうか。大いに期待を持っています。

(追加参考) 視察の御礼挨拶 (新井よしなお議員)

(タイトル) 三井屋工業株式会社訪問 2 : 無所属会派の会派視察。三井屋工業株式会社東北事業部を訪問。視察終了後、新井よしなお議員が挨拶。高橋社長をはじめ、皆さんにお世話になりました。

<https://youtu.be/F1QtpIJZbjM>

三井屋工業株式会社訪問 2 : 町田市議会無所属会派の会派視察。三井屋工業株式会社東北事業部を訪問。視察終了後、新井よしなお議員が挨拶。高橋社長をはじめ、工場内で就業されている皆様にもお世話になりました。先端工場の現場を見学、丁寧な説明を頂きました。吉田つとむ発見動画チャンネル

参考 : 視察報告書 2 - 3 米沢市産業部ブランド戦略課 米沢ブランドについて

参考添付資料 : 速報 1 三井屋工業株式会社 東北事業部 : 無所属会派の視察は 2 日目、米沢市に工場進出した三井屋工業 (本社愛知県豊田市) を訪問視察。

2023.07.19